



【調査の概要】

*「大阪府」は「大阪・公立学校」の結果を表しています。

- 実施日：令和3年5月26日(水)～6月8日(火)
- 実施校数・実施児童数 小学校：41校(5年生)・2,888人 (6年生)・2,931人
- 学力に関する調査 5年生：国語・算数・理科・教科横断型問題「わくわく問題」
6年生：教科横断型問題「わくわく問題」
- 学習や生活の状況・学校の取組に関する調査 アンケート(児童)・(教員)

【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう十分配慮をお願いいたします。
調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童の全般的な学習状況等の改善につなげることが重要と考えます。

教科別正答率

	教科	高槻市	大阪府	差(対大阪府)
5年生	国語	83.3	81.6	1.7
	算数	52.5	48.5	4.0
	理科	51.7	49.2	2.5
5・6年生	わくわく問題	63.5	60.1	3.4

児童アンケート

「未来に向かう力」「好奇心」レーダーチャート(対府)



上記のレーダーチャートは、「粘り強さ」や「ふれない心」等、大阪府教育庁が設定した指標に基づき、大阪府の平均を「1.0」として本市の子どもの状況を表しています。

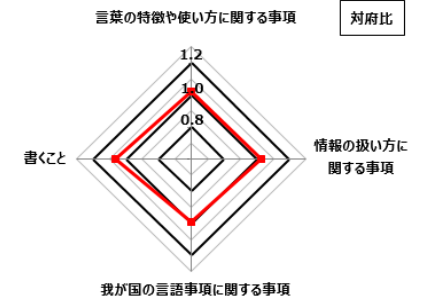
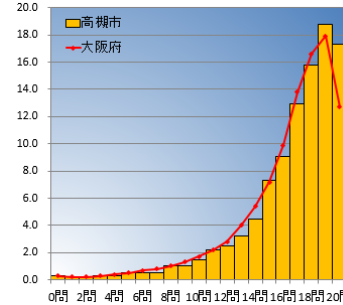
正答数分布・領域等別正答率 / 対府比

国語

設問数 20問

出題内容は、言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言語等の理解を問う問題と文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題であった。

府全体で課題となった助詞の誤用や主語・述語のねじれなどを修正する問題において、府平均を大きく上回る結果となる等、概ね良好な結果であった。漢字の書き取りについて、「指定された部分のひらがなで漢字に直せるものをすべて書き直す」問題で、府の正答率を上回ってはいるものの、出題の趣旨を捉えながら、慣れな

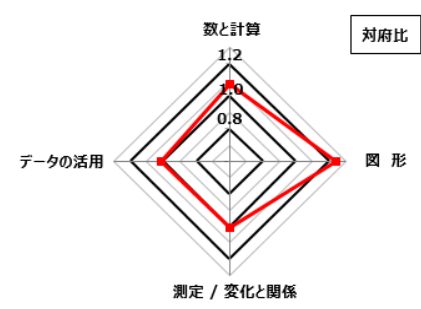
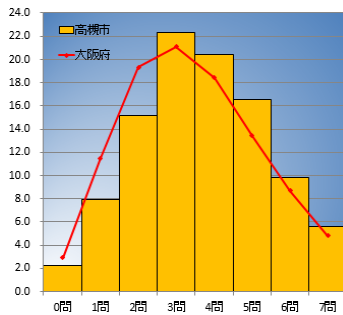


算数

設問数 7問

出題内容は、関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題であった。

長方形の縦と横の長さから、周りの長さを求める問題等、図形の領域において府平均を大きく上回るなど、すべての設問で府平均正答率を上回る結果であった。面積と個数という伴って変わる2つの量の関係を、正しく文章で説明し、記号を使って数量の関係を一般的な式で表す問題で、府の正答率を上回ってはいるものの課題が見られた。

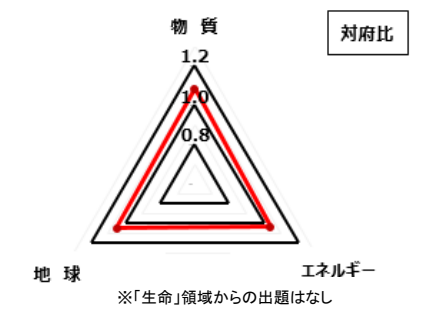
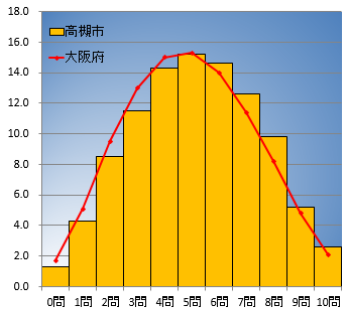


理科

設問数 10問

出題内容は、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題であった。

同じ体積でも金属の種類によって重さが違うことを理解し、3つの球を見分ける問題において、府平均を大きく上回る等、すべての設問で府平均正答率を上回る結果であった。日当たりや温度の状況を考え、植物を育ててグリーンカーテンを作る適切な場所を判断し、暑さをやわらげる効果を大きくする適切な場所を選び、その理由を書く問題で、府の正答率を上回ってはいるものの課題が見られた。



わくわく問題

設問数 10問

出題内容は、教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs, プログラミング的思考)等をテーマにした問題、文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等、様々な資料を題材とした問題、問題の内容をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題であった。

すべての設問で府平均正答率を上回る結果であったものの、会話と表から、ぶどうのランク分けを論理的にとらえるプログラミング的思考を問うた問題等、順序良く、論理的に考えるプログラミング的思考を問われる問題や問題を捉える際に、図や表から読み取ることや、資料の情報を整理し伝えることに課題が見られた。

